

【「大分市バリアフリー基本構想」改定案】の市民意見公募において寄せられた意見等の概要とそれに対する本市の考え方

意見提出期間：令和2年1月14日～2月14日

意見提出者数： 13名

意見件数： 17件

番号	意見の概要	意見に対する本市の考え方
1	<p>他の市のバリアフリーの状況と大分市のバリアフリーの状況を比較してほしい。私達の市が遅れているのか、それとも他にない新しい取組をしているのか、とても気になる。また、そうしたバリアフリーを取り入れることで、私たちにもたらされる恩恵を実際の具体例や市民の声をかくなどして記してほしい。</p>	<p>全国的にバリアフリー基本構想の策定が2割程度に留まっている中、本市は平成16年より基本構想を策定し、人にやさしいまちづくりに取り組んでまいりました。また、今回、当初の予定を1年前倒しして改定に取り組んでいるところです。このような中で、具体の事業については進捗管理を行っており、市のホームページにおいても公表しております。今回の改定案にも、ヒアリング調査や住民アンケート調査の結果を記載しておりますが、この施策を推進することで市民の皆様が得られる恩恵をわかりやすくお伝えできるように努めてまいります。</p>
2	<p>高齢化が進んでいる今、誰もが生活しやすい街にしていかなければならない。今の大分市は車を使っでの移動が基本で年を取ると安全のために運転免許を返納することもある。その場合、車がない状態では今の大分の街を思うように移動することはできない。明野などの高台では、高齢化が進むと移動手段がますます限られる。大分市内にある高台地区の多くは今後高齢化が進むと生活物資を調達できない高台難民が住む地域になる可能性がある。現段階で対策や見通しはどうなっているか。</p>	<p>本市ではこれまで、拡散型の都市構造が進行してきました。このため、今後の本市のまちづくりの方向性として、2019年3月に「大分市立地適正化計画」を策定いたしました。【持続可能な『多極ネットワーク型集約都市』の形成】を都市づくりの基本理念として掲げ、各地区拠点に集積する商業・福祉等の都市機能を維持・強化し、それら拠点間をつなぐ公共交通ネットワークの維持・強化を推進することとしております。これにより、過度に自家用車に頼らなくても外出や交流ができる、自立的な暮らしの実現を目指しております。</p>

番号	意見の概要	意見に対する本市の考え方
3	”心のバリアフリーに関する取り組みは、県市のホームページや既存のイベントを活用して活動している”とありますが、その時にこんな構想計画を考えているなどもっと市の街作りについて知ったり、興味を持てたりするような場があったらおもしろいし、完成形(?)などをCGにすることができるとおもしろいと思いました。	心のバリアフリーの施策で求められる「理解を深めるための啓発・広報活動による推進」および「実際に行動につなげるための支援となる幅広い教育活動における推進」を実行していく中で、今後はより一層の周知・普及をしていく必要があり、わかりやすく興味を持っていただけるような工夫を検討してまいります。
4	心のバリアフリーに関して、イベント等を催すだけではなかなか広まる可能性が高まらないと思うので、地元テレビ局と共同で、視聴者の頭により強い印象を与えるCMを制作してみることが良いと思う。	
5	視覚障がい者のための音響信号の設置、夜間延長とあるが、何時まで延長するのか。また音響信号が消えたときの視覚障がい者に対する配慮はあるか。夜間の使用時の周辺からの苦情は考えられないか。	音響式信号の管理者である公安委員会に確認をしたところ、現在は音響式信号を設置していても、苦情などから夜間は音響装置を消す、あるいは音を小さくしている交差点がございます。このため、音響式信号の夜間延長に関しましては、設置している交差点ごとに周辺の方に配慮をしながら行っております。また、音の設定を変更せざるを得ないときには、その交差点を利用される視覚障がい者等への情報提供を十分に行うように働きかけをしてまいります。
6	鶴崎駅付近に、坂の途中あたりにバス停があります。その場合は、位置から変えないといけないんじゃないでしょうか。	現在の状況を確認する中で、道路管理者・交通管理者・交通事業者などと協議を行い、対応を検討してまいります。

番号	意見の概要	意見に対する本市の考え方
7	<p>1の「高齢者や障がい者を含む全ての人にやさしいまちづくり」という書き方は良くないと思う。「高齢者や障がい者を含む」と分けて書かれているのは差別だと思う。障がい者の方は普通の人間であって、わざわざ分けて書く必要性を感じられない。分けて書かれている方が、たしかに強調されているように見えるが、他人が人に優しくするのは当たり前のことであって、ここに分けて書かれている人が優しく対応される対象ではない。2に書かれている文だと私は「みんな平等」という感じがしない。だから「高齢者や障がい者を含む全ての人にやさしいまちづくり」ではなく「全ての人にやさしいまちづくり」という文が合っていると私は思った。</p>	<p>本マスタープランおよび基本構想は、国の「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」いわゆる「バリアフリー法」に基づいて策定をすることとしております。法においては、高齢者、障がい者等にとっての社会的な障壁を除去し、年齢、障がいの有無その他の事情によって分け隔てられることなく共生する社会を実現することで、高齢者、障がい者等の自立した日常生活及び社会生活を確保することが主旨となっております。この法の主旨に基づいて、本市の取組方策の一つとして「高齢者や障がい者を含む全ての人にやさしいまちづくり」を掲げております。</p>
8	<p>以前視覚障がい者の方が大分駅のタクシー乗り場まで行く際、タクシーの周りに一般の車がたくさんとまっております。視覚障がい者の方はどの車の所へいけばいいかわからず、周りをずっと行き来していました。点字ブロックがあってもこのような場合は行き先がわからないこともあるのだと思い、音声案内やタクシー運転手が呼びかけたりするのが大切だと思いました。実際、その方はまちがえて私の家の車に乗り込もうとしていたのでタクシーのところまで案内しました。このような事例をなくすためのバリアフリーがあれば良いなと思いました。</p>	<p>点字ブロックや音声案内などの設備によるハード整備を推進することも大切ですが、加えて一人ひとりがやさしさや思いやりをもって接する、呼びかけや手助けなどの「心のバリアフリー」の啓発・周知の推進も重要な取り組みです。このため、視覚障がいの方に限らずすべての人にやさしいまちづくりを実現するために、ハード施策とソフト施策を両輪で推し進めてまいります。</p>

番号	意見の概要	意見に対する本市の考え方
9	<p>「移動等円滑化促進地区」は、鉄道駅を中心とした半径約1kmの区域で、施設間の移動が通常徒歩で行える範囲だとあるが、この範囲の狭さであると、例えばバスの場合、よほど本数が多い限り、待ち時間のほうが長くなって徒歩で移動する人が多くなるのではないだろうか。資料にあるような誘導ブロックや段差のない横断歩道など、「いつでも」利用可能な歩道を中心に整備を行い、歩くことが難しい人のためには、タクシー券の給付や、タクシー会社がバリアフリー車両を導入する際の補助金を出すなど、オンデマンド方式の交通機関でないと、地方の車社会に慣れた人に利用してもらうのは難しいと思う。また、一般に施設に行く回数は官公庁などより商業施設に行くことの方が多いと考えられるが、大型店等は郊外化によって駅から1km以上離れた場所に立地することも多く、1km圏内のみの整備であると日常的な採算を確保することが難しいのではないかと。</p>	<p>これまでの移動等円滑化促進地区は大分駅周辺地区のみを対象としておりましたが、今回の改定にあたって、高城・鶴崎・大在駅周辺地区の3地区を追加しております。区域の設定については、法の基本方針に基づいて設定をしておりますが、郊外的大型店舗を含む地区についても検討していくべき地区であると考えております。また、今回設定をする4地区に限らず、大分市全域においても歩道の整備等のバリアフリー化の事業は状況に応じて行ってまいります。なお、交通機関の対応としましては、長寿応援バス事業や重度心身障がい者あるいは高齢者へのタクシー券の交付などの事業を実施しております。</p>
10	<p>鶴崎にはエレベーターが設置されたが、利用人数が一日を通して多い分、例えば階段の一段の幅を広くするであったり、ベンチの個数を増やすであったり安全性や利便性に力を入れて欲しい。特に大在駅は電車を降りてすぐに、狭く急な階段を登らなければならないため危険が他よりも多く、また駅自体の出口もあまり広くないため改善すべき点であると思う。</p>	<p>鶴崎駅は、JR九州が平成30年度にバリアフリー法の基本方針に基づくバリアフリー化を実施しております。大在駅は令和2年度中を目標に、こ線橋を含めて、バリアフリー法の基本方針に基づくエレベーターの設置などのバリアフリー化の実施が進められております。ご要望に関しましてはJR九州に働きかけを行ってまいります。</p>

番号	意見の概要	意見に対する本市の考え方
11	<p>バスの時刻をわかりやすくする方法として、バスアプリによりあと何分ぐらいに来るのか通知が来たりだとか、時刻表を電子版のものにしたりして、タッチパネルでたくさんのバスの情報が表示されていたら便利だし、分かりやすいなと思いました。</p>	<p>2019年3月に、バスの待ち時間や乗換案内などをスマートフォンなどで確認できる多言語対応のサービス「バスどこ大分」が開始されています。また、大分駅の北口にはデジタルサイネージが設置され、バスの運行情報が掲載されています。今後もすべての人が円滑に移動できるように、わかりやすい情報提供に努めてまいります。</p>
12	<p>意見聴取はもっとオープンに、それこそ高齢者などターゲットに合わせて実施頂きたいです。アンケート調査を郵送するとか。お金も手間もかかりますが、少しでも多くの意見を聞いて欲しいですし、意見をもとにバリアフリーを実現していただきたく思います。</p>	<p>今回の改定にあたって、大分市内に在住される、高齢者を含む18歳以上の方の中から1,972人を無作為で抽出し、バリアフリーに関するアンケート調査票を郵送させていただきました。582人の方から回答をいただくことができ、調査結果はバリアフリーマスタープランの資料編に記載をしております。今後もできる限り多くの方のご意見を反映できるように努めてまいります。</p>
13	<p>鶴崎駅から鶴崎駅前バス停までが遠く、移動するのが億劫。駅のすぐ近くにバス停を設置してほしい。</p>	<p>現在の状況を確認する中で、駅前広場管理者・道路管理者・交通管理者・交通事業者などと協議を行い、対応を検討してまいります。</p>
14	<p>鶴崎駅の入り口が南側しかない。裏側（北側）からでもアクセスできるようにしてほしい。一時期、同様の意見を書いた手作りの看板が駅周辺に設置されていたのはご存知でしょうか？</p>	<p>現在の状況を確認する中で、施設管理者であるJRなどと協議を行い、対応を検討してまいります。</p>
15	<p>駅の無人化には反対です。JRの意向とは別にサポートスタッフを配備してほしい。</p>	<p>本市はスマートサポートステーションの導入に関し、JR九州に対して、市民や利用者に不安を与えないよう、慎重な検討と丁寧な説明を求めてまいります。</p>

番号	意見の概要	意見に対する本市の考え方
16	<p>公衆トイレの改修をお願いしたい。高齢者や障害者(車椅子)でも利用しやすいトイレを設置してほしい。</p>	<p>近年、公共施設に限らず民間施設においても多目的トイレの設置は広がっております。官公庁の施設や公園のトイレについては、順次多目的トイレの整備を進めており、今後も各施設管理者に働きかけを行ってまいります。</p>
17	<p>新たに、移動等円滑化促進区域に追加された高城駅周辺地区ですが、高城駅から牧駅を結ぶ路線の途中に遮断機のない踏切があります。先日その踏切で1人の方が命を落とす事件がありました。「優先性」「緊急性」「有効性」に考慮し、今回は鶴崎駅が重点整備地区となりましたが、その地域を含め遮断機のない踏切のバリアフリー化を行なっていただきたいです。高齢者も使用する踏切で耳の遠い方などいらっしゃるかと思います。まずは遮断機のある踏切を設置し、安心して誰もが円滑に移動できる地域作りをしてほしいです。</p>	<p>今回の改定にあたって、移動等円滑化促進地区としてこれまでの大分駅周辺地区に加えて、高城・鶴崎・大在駅周辺地区の3地区を追加しておりますが、大分市全域についてもバリアフリー化の事業は状況に応じて行ってまいります。ご意見は施設管理者である JR に伝えてまいります。</p>